

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：吉野智恵 所属：大分県立由布支援学校 記録日：平成30年 2月16日
キーワード：表現、読み書き支援、達成感、自己肯定感、動画・写真

【対象児の情報】

1 学年 小学部3年 男児

2 障害と困難の内容

①知的障がい

〈絵画語い発達検査〉 平成27年12月実施

生活年齢：7歳1ヶ月 語彙年齢：5歳0ヶ月 評価点：4

〈WISC-IV〉 平成29年 7月実施

全検査 58 言語理解 69 知覚推理 68 ワーキングメモリー 68 処理速度 52

②学習上の困りと課題

○話すことは好きだが、話すことがうまくまとまらない

- ・性格は、人なつっこく友だちに話したい、みんなの前で発表したいという気持ちは強いが、話す内容がまとまらず上手に伝わらない。また、伝える方法も少ない。
- ・みんなの前で発表しようとするが、必ず教師に視線を向け「いいよ」という言葉かけを待つことが多い。

○人の話には興味があるが、聞き取りに弱さがある

- ・人の失敗談を好む傾向にはあるが、人の話には、興味関心は高い。ただ、正しく聞き取れていないことも多く、話の話題を変えるなどする。

○読む活動には取り組むが、読みの力は弱い

- ・ひらがなで書かれた文は、単語のまとまりで読むことができるが、ゆっくりとした読み方になる。

○書くことへの苦手意識があり、活動が続かない

- ・10文字程度書く活動も集中力が続かない。また、手指が不器用なためタブレット端末などの操作性が弱い。文字への美しさにこだわりがあり、iPadに手書きで書き込んでも消そうとするなど書く活動への意欲は低い。

③行動の傾向

○できないことよりもできることの方から取り組む方がよい

- ・少しでもできないと思うと、取り組もうとしない。一方、できたと実感すると、同じ課題に繰り返し取り組む。

④将来の姿

○本人がICT機器のよさを感じ、興味をもってほしい

- ・家庭では、タブレット端末等ICT機器がある状況ではないが、今後、自分で時間管理やスケジュール管理を行う必要がある子どもである。

【活動進捗】

1 当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

- 想起が必要な場面で視覚的な情報を手がかりに、話す内容をまとめ答える。
- 読みを支援することで読解を高める。
- できたことを認められることで、自己有用感を高める。

2 実施期間 平成29年6月～平成30年1月

3 実施者 吉野 智恵

4 実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

1 対象児の事前の状況

(1) 話す・聞くの状況

家庭で遊んだゲームや見たDVDの内容は、たくさん話すことができる。しかし「〇〇のこと知っている。教えようか。ポコーンと壊して……。」など同じことを繰り返す、独特な表現を使うなどのため相手に伝わりにくい。発表する場面では、「なんだっけ。さっきまでいおうとしていたのに」といって、話す話題が決まらなかったり、話す内容がまとまらなかったりする。また、簡単な内容であれば聞き取ることはできるが、話が長くなると聞き取れない、聞き間違いが多いなど見られた。

→本人の気持ちは、話をしたいうまく伝えたいという気持ちは十分にあり、何を話すのか（話題の選択）、表現力の少なさ、話の構成力の弱さからだと考えられる。

(2) 読むの状況

友だちが絵本を読んでいると近づいて興味を示すが自分から本を出して読んだり調べたりすることはほとんどない。ひらがなの読みは理解しているが、読むスピードはゆっくりで単語のたどたどしい読みになる。

→2の検査結果から、処理速度の困難さからくる弱さだと思われるので、ルビを振る、行間を広くするなど文字を読むことへの支援をおこなうことで言葉への興味をさらに高める。

(3) 書くの状況

ホワイトボードに日付、曜日を書くが、お礼の手紙など長い文章になると違う活動をしようとする。

→苦手意識が強いが、単語程度は取り組める。長い文章になると集中力が続かない。「話す」ことがうまくなることで意欲を高め、「書く」ことへの取り組みにつなげていく。

2 活動の具体的内容

(1) 話の内容を正しく聞き取り、問われたことに適切に答える

① 文字カードで、聞き取る視点を視覚化（図1）

話の構成を「2時間目は音楽です。場所は〇〇です。」などと、1つの文に1つの内容で伝えるようにした。後で尋ねることを文字で示すことで問われたことに答えられるようにした。

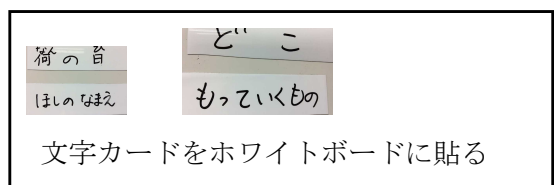


図1

②話の内容を“日程限定”から、興味関心の持てる時事ネタへ

朝の会の“先生の話”で話を聞く前に、聞く体勢が整えられるように1分間程度、ミュージックアプリで川のせせらぎ音などを流し、“静の時間”を設ける。その後、話を聞くようにした。話の内容を正しく聞き取り、生活に結びついていけるように、話の内容を広げていった。



Yahoo!キッズをモニターに映して、見やすくした。



ミュージックアプリ

Yahoo!キッズは、一つの文が、長なくてイラストも多い。また、検索ランキングが載っているのも、そのワードに興味を持つことが期待される。

時期	話の内容	支援内容
1 学期	日程表を指しながら、場所、持ち物	文字カード「どこ」「もっていくもの」
2 学期	モニターで、イラストや写真を写す “今日は何の日”	文字カード「何の日」(ふりがな付き) (図1) 「〇〇のなまえ」
3 学期	モニターで、イラストや写真を写す “今日は何の日” “季節の話”	文字カード「何の日」 漢字にルビを振る

(2) 読みを支援することで読解を支援する。

- ① 興味を持った絵本が簡単に読めるように、読むことに興味を持てるように、読み聞かせアプリなどの使用。



アプリ 「えっほー」

日本昔話、世界の童話、しつけや知育、オリジナルものまでさまざまなジャンルの絵本が揃っている電子書籍アプリ。全ての絵本にナレーションがついている。ワンタッチで字幕を表示でき、読むスピードも変えることができる。

図2



アプリ 「もじかめ」

カメラでかざした単語や文章の文字をリアルタイムに認識して、認識結果をテキストデータとして表示できる活字OCRアプリ

えっほーは、モニターに映して、学級の3人で見た。(図2) 何を読むかは、3人で話しながら決めていった。A男は、しらゆきひめ、ヘンゼルとグレーテル、桃太郎などを選んでいった。話が始めると、ずっと注目していた。字幕は、出てくるが、それより音声と絵に注目していた。もじかめは、図鑑や本を読むのに使った。操作がうまくいかないのと、機械音の読み上げにあまりピンときていないようだった。

- ② 苦手意識軽減のために、内容の選定・教材の工夫。



「虫のおはなし」小1程度の内容

パソコンで作成したルビ付きの教材を使用

(3) できたことを認められることで、自己有用感を高める。

① 「話す」ことを整理してから話す

写真やイラストを見ることで、話す内容が思い浮かべられるので、写真に文字を書き込めたり、順番につないでいけたりするアプリ『ロイロノート・スクール』を使って話す内容を一部決めたり、発表するときのお助けツールにする。写真を選ぶときは、操作が負担にならないようには、10枚程度の中から選ぶようにする。(図3)



アプリ ロイロノート・スクール
自分の考えをカードにまとめ、見せる順番の入れ替えをしながら発表資料が作成できるアプリです。自分の考える過程が視覚化されるので、伝えたい内容が整理される、地図や写真へのコメントが入れられるなどコミュニケーションツールとしても優れている。

② 「話す」表現力を高め、発表する機会を設ける

写真の内容を話す場合、「〇〇しました」だけで終わるので、加えてほしい内容を“ヒントボード”で知らせるようにした。(図4)

ヒントボード

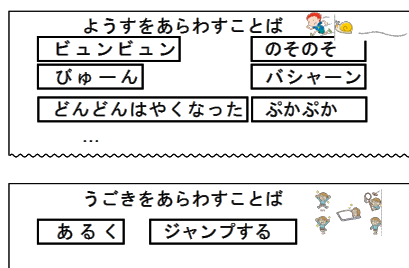


図 4

発表の機会は、朝、帰りの会や国語の授業で行うだけでなく、学部集会など徐々に認められる場を広げていく。写真や動画は、適宜撮っておき、本人と見て、学部集会で発表するものを決めるようにした。



アプリ カメラ



アプリ iMovie

動画は、教師が撮ることが多かったが、時々子ども同士で、撮ることもあった。カメラを向けるとA男は、おもしろい表情(図5)をすることが多く、撮影後すぐに「見せて」と言ってきて、見て喜んでいる。iMovieの編集は、教師が行った。



図 5

3 対象児の事後の変化

(1) 話の内容を正しく聞き取り、問われたことに答える

①文字カードで、聞き取る内容を視覚化

6月末…聞くポイントがわかることで、「あ、聞いてなかった」と答えることは、なくなった。

7月中旬…日程の話での「いつ」「どこ」「もってくるもの」は、間違えずに聞き取れるようになった。

そのあとの行動でも、聞き取ったことを行うことができた。

いつも、決まった授業の持ち物の組み合わせ（音楽室…いす）だけでなく、その日だけの授業でも（集会室…クレヨン）忘れずに持っていくことができた。（日程表に文字の支援あり）

9月上旬…季節の話や今日は何の日の話で「何の日」「どこのお話」について問うと、時折間違えることがあるが、聞き取ることができている。

11月 …生活単元学習など学部合同学習でも、内容理解のためモニターに映して授業を行っている。話を聞いて質問に手を挙げるようになってきた。

②話の内容を日程限定から、興味関心の持てる時事ネタへ

9月の朝の会、“先生の話”では、その日の日程に関するだけでなく、季節の話や“今日は何の日”などを毎日取り入れている。宇宙の話では、惑星のイラストを見せると、すぐに「宇宙人っているん？」「（惑星を指して）暑いのか？」など前のめりになって、たくさん質問してきた。教師が問う「何の日」「これは、何かな」にも答えることができた。（図6）

学級だけではなく、学部全体の授業でも、質問に適切に答える姿が多く見られるようになった。以前は、わかっても手を上げなかったのだが、2学期は、わかったことは、意欲的に手を上げるようになっている。（図7）

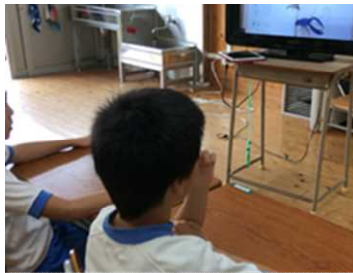


図6



図7 左が対象児

(2) 読みを支援することで読解を高める

アプリ「もじかめ」での取り組みは、操作をするときにうまく読み込めず、読み上げられなかったことがあり、消極的になっていった。

絵本を拡大して、モニターに映したら、隣の友だちと「なんで青いかなあ」「どう思う？」などと絵を見た感想などを話すことがあり、興味が少しずつ出ているのではないかと。

12月の金曜日、下校前に本人が「明日〇〇（放課後デイサービス）で本が読めるなあ。」と言うので支援員さんに尋ねてみた。土曜日に利用するときは、一人で読んだり、支援員さんに読み聞かせたりすることもあるという。そこで、土曜日見に行くと、キャラクターの紹介本を教師に見せて、「これが〇〇で力は△馬力なんで。」と説明してくれた。

アプリ「えっほー」は、次々見ていたが、時々、自分で読みたい物を選ぶ。

(3) できたことを認められることで、自己有用感を高める

① 「話す」ことを整理してから話す

選んだ写真に、ヒントボードから選んだ言葉をゆっくりであるが、書き込んでいた。教師は手書き文字を想定していたが、入力した文字がきれいなためか、一文字ずつ入力した。(図8)



図8

② 「話す」表現力を高め、発表する機会を設ける

帰りの会の話

1学期は、「算数ががんばりました。楽しかったです」だったのが、2学期は、「ドライブごっこで、こう曲がって、『あー』となって、危なかったけど、楽しかったです」と詳しく楽しい話になってきた。

2学期始業式の発表(図9)

夏休みの思い出を発表するときに、対象児と何について話すか写真を見て選び、コメントの入力は、教師が行った。前に出たとき、緊張から呼吸が浅くなっているのが、近くでわかった。マイクを口元にさしかけて、支援する予定だったが、自分で持ち、iPadをスライドさせるのも自分でした。終わった後、他学年や他学部の教師に褒められて「がんばったよなあ。」と言って喜んでいた。



図9

学部集会での動画紹介(図10)

毎月、学校で取り組んでいるめあての実施状況を発表するのに、iMovieを使った。それを10月の学部集会で流したら、下を向いていて恥ずかしそうにしていた。他の学年の先生たちから「よかったよ」と言われ、笑顔が見られた。11月は、学年で収穫した大根を調理する過程で出た絞り汁を飲んだ感想や乾布摩擦をする動画を撮り、それを披露した。撮影時には「これをみんなに見せようか」と誘うと「そうしよう」と言って、撮影。学部集会で流すときは、しっかり前を向いて、笑顔だった。



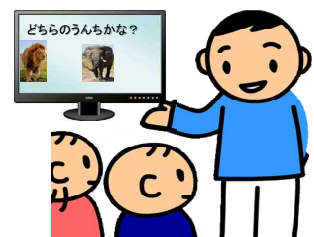
図10

1月は、おすすめ本の紹介を動画にとって、披露。前に出て発表とどちらがよいか選ぶようにすると、「こっち(iPad)がいい。」と言って、自分がおすすめする本とどこがおもしろいのかを話した。

【報告者の気づきとエビデンス】

〈気づき1〉

- ・モニター使用で、話の内容をイメージでき、集中して聞くことができたのではないかな。
- ・学級での聞く力ができたことで、内容を理解することができた。そのことが学部全体での授業でも聞こうという姿につながったのではないかな。



〈エビデンス〉

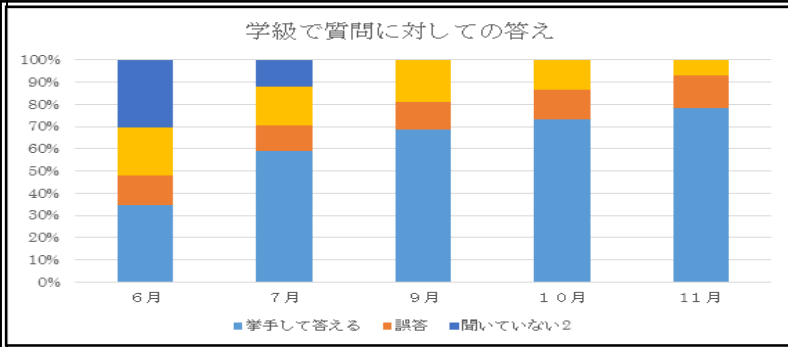


図 1 1

考察

- 6月までは、話が始めると、爪を噛んだりよそ見をしたりして、「あ、聞いてなかった」ということが多かったが、モニターを使って話をすると「前を向いて」と教師が言うことなく、前を注目するようになった。視覚支援により内容を理解できることが多くなったのではないかと。(図 1 1)

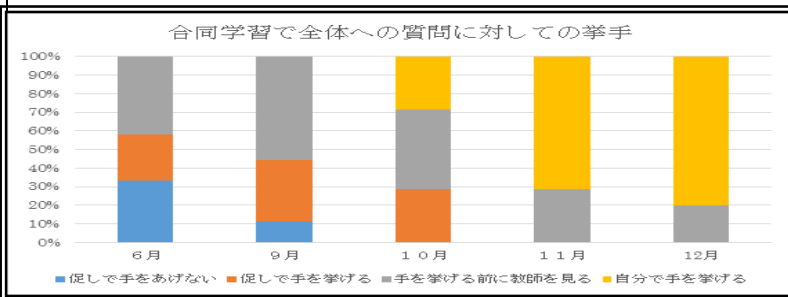


図 1 2

※生活単元学習など学部合同学習でも、内容理解のためモニターに映して授業を行った。

考察

- 1対1で問いかけなくても答えられるようになった。そして、内容がわかるようになって、自信が持てるようになると、教師に確認しなくても自分で考えて、手を挙げるようになっている。(図 1 2)

〈気づき 2〉

- ルビ付きの文章や文節にスペースをつける支援を行うことで、読む力がついてきたのではないかと。また、読みを支援することで、当初難しいと考えていた書く学習も取り組むようになったのではないかと。

〈エビデンス〉

読めるようになった漢字…月、火、水、木、金、土、日 音楽、体育、正月、年、生、山、中、下

12月校外学習の事前学習では、10文字程度の文を自分で書くことができるようになった。(図 1 3) 体験したことを書く学習では、書く項目を“こうえん”“ペットワイド”“ピソリーノ”と3枚のカードに書いておき(図 1 4)、くわしく書くための視点を〈きもち〉〈したこと〉〈なにを〉などをホワイトボードに文字で示した。これまでは、「先生(視写できるように)書いて」ということが多かったが、自分で文を考えて書くことができた。(図 1 5)

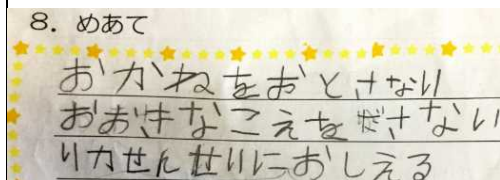


図 1 3

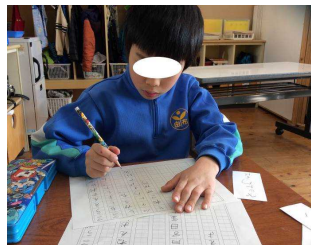


図 1 4

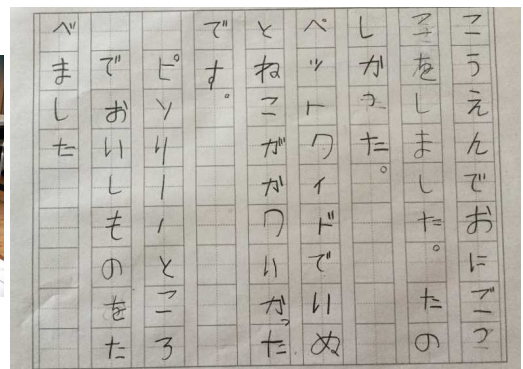


図 1 5

考察

- 読む力がついてきたことで、想定していたよりもできることが増えたのではないかと。これまで、文を書くときは、書く内容を本人と話して、教師がまとめたものを視写していた。本人もすぐに「先生(前に)書いて」ということが多かったが、「おおきなこえって書けば いいんだよね」と言っ

た後、自分で考える様子が見られた。(図16)



図16

〈気づき3〉

- ・タブレット端末を使って、話す内容をまとめて伝えることが表現する意欲につながり、YouTuber 気分での動画作成につながったのだろう。伝える場面を設定し、認められる経験が多くなることで、表現に**変化**が見られた。YouTuber の口調のまねから、自分で話す内容を考えたり、動画の題材を提案したりするようになった。表現の幅が広がってきたのであろう。
- ・「前で発表するのは、恥ずかしい。入学したときから、ずっと恥ずかしかった」と言って、一言言うのも体を折り曲げて顔を上げられないことが多かった。それが、写真があること、タブレットを操作することが安心感につながったようだ。
- ・「～先生に話しに行こう」と言っても消極的だったのだが、写真や動画を使って伝えることで、少しずつできるようになってきた。クラスの友だちとダンスをしているところを撮って、学部集会上に披露した。はじめは恥ずかしがっていたが、2, 3回と作っていくうちに、みんなに見てもらいたい、感想を聞きたいと言うようになってきた。

〈エビデンス〉

動画の内容と披露した場

7月…YouTuber の口調をまねして、作ったブロックを紹介	3年生の教室内で見合う
10月…紅葉した落ち葉を巻き上げる様子を撮影	学部集会
12月…収穫した大根の調理中に大根汁を味見する様子を映す 乾布摩擦の歌で踊っているところを撮影	休み時間学部の先生に見せに行く 学部集会
1月…収穫したほうれん草のおいしさを生で食べている様子で表現	学部集会
2月…「友だちに本をおすすめしよう」の動画を作成(図17) 自分がおもしろいと思ったところを読んで紹介する	学部集会

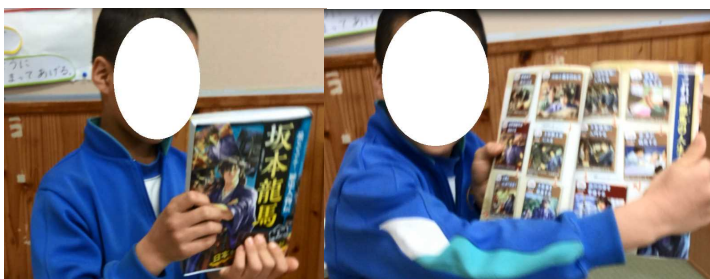


図17